

大城ひかるのベトナム

通信

-11-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



ダナン市の交通運輸短期大学の学生向けに実施したセミナー。日本への関心は高い（提供写真 ESUHAD）

ベトナムの送出し機関を検索すると、だいたいトップページには採用情報が載っています。求職者は名前と電話番号を登録し、話を聞いて面接を受けます。合格すると出国までの間、日本語や日本の生活について学びます。当社のように日本語学校を併設しているところ

ろはあまりありません。、たいていは提携校で学びます。学習期間も当校では1年ですが、一般的には4〜5か月だそうで、中には2〜3か月で出国する例もあるようです。

送出し機関のほとんどは日本企業からの依頼に依って、そのつど人材を募集するのですが、コロナ期にはどこも採用が難しくなりました。日本で感染者が爆発的に増えた時は、心配した保護者が日本へ行くのを許可しないケースもありました。にもかかわらず、ベトナム人にとって日本が行きたい国ナンバーワンであることには変わりなく、昨年からまた希望者が増え始めています。

来日前準備が成否のカギ握る

求職者の中には「すぐ日本へ行って金を稼いだ」と考える人がいます。彼らは日本語はもちろんのこと、職場や生活に必要な知識を事前に学んだ方がいいとは考えません。そういう人が一般的な職探しのように紹介料を払って仕事を見つけようとした場合、悪徳ブローカーに接触してしまうと、借金を抱えて来日することになってしまうのです。きちんと準備しなかつたために、職場や周りの人とうまくやっていけなくなることもあります。

ベトナムの若い人はフェイスブックをはじめとするSNSを頻繁に活用しているのですが、逆に情報量が多すぎて判断できない場合もあります。考慮した結果、結局は信頼できる人からの紹介が安心と考え、紹介の最終地点が悪徳ブローカーだったという残念なケースもあるでしょう。また、経験がない若い求職者の場合、自力で面接に合格する自信がなく口添えが欲しくて、ついブローカーを頼ってしまう人もいます。

できない場合もあります。考慮した結果、結局は信頼できる人からの紹介が安心と考え、紹介の最終地点が悪徳ブローカーだったという残念なケースもあるでしょう。また、経験がない若い求職者の場合、自力で面接に合格する自信がなく口添えが欲しくて、ついブローカーを頼ってしまう人もいます。

俯瞰してみた時、求職者がブローカーにたどり着いてしまふか、真つ当な送出し機関にたどり着くかは紙一重かもしれません。最初は金を稼ぐことしか考えていなかったとしても、誰かが「事前準備をしないと日本へ行ってから苦労する」と教えてくれたら、彼／彼女は安易な道を選ばなかつたかもしれません。当社がSNSで情報を発信したり、ウエビナーを開催したり、大学や短大

と連携して説明会を開催しているのは、一人でも多くの若者に直接情報を届けたいと考えているからです。送出し機関には人を集めるだけでなく、彼らが日本で有意義な3年間を送れるように教育して送り出す責務があると思います。

送出し機関にはそれぞれ個性があります。ですから日本の皆さまも、その会社が何に力を入れて募集しているか、どこまで一人一人を見ているか、どんな教育をしているかを見極めていただきたいと思ひます。実習生にとって日本に行くことが人生のゴールではないように、皆さまにとって受け入れは始まりにすぎません。皆さまのゴールはどこですか。

（ご意見・ご質問をお聞かせください。oshiro@kaizen.edu.vn）